櫻雲閣主人著

明治史實 外交秘話

◆◆布裝上製函入　口繪數十葉　◆四六判五五〇頁　定價二.五〇　送料二〇

全國讀書界の人氣愈沸騰！

明治文化の史實と側面史！

本書一度び出版の豫告傳はるや、忽ち注文書机上に山積し、同時に筆者櫻雲閣主人の本名を明かにせよとの問合せ多數あるは、本書が如何に信頼し得べき明治側面史であり且又趣味と實益の兩全せる好讀物たるを眞實に裏書するものであらう。

德富蘇峰氏序に曰く

「外交秘話」御出版の由、至極驩迎仕候。右は中外紙上に於て一兩回讀來るや直に其の作者の貴臺なることを看破候。日韓併合の一幕別して面白く候。驚天動地の活劇作者亦其の劇裡の一役者、他の門外漢の夢想せざる所を縱横無碍に道破せられたる決して不思議にあらず候。

下村海南氏序に曰く

「外交秘話」は政治、軍事、財政、經濟のあらゆる方面に通ぜる機微の消息が史實として小說以上に面白く可笑く叙せられてあるばかりでない、それは汎く國民の心の糧として知つて貰はねばならぬ滋味を以て充たされてある。

目次の一部

賣慣の血涙　幕末期の樺太問題——小出スツレモカホフ條約——條約無視の樺太占領——隱奧の樺太殖民業——蹴さる——官々悲痛の意見書——鵰翼飛んで歐洲遊歷——對露條約案　改正案に對する內閣會議——伊藤、陸奧の長口舌——改正案の三要點

伊藤の歐化主義　鹿鳴館と假裝舞踏會——戸田夫人との有らぬ醜聞——深夜まで女と談笑する伊藤——下田歌子は大臣の器——柔いやうで存外固い伊藤——風俗壞亂の元兇

日本最初の講和條件　桑息の荒い民論——青木、西の講和條件——廣島の御前會議——決定條約案——伊藤の說明演說——文武官一致の奏——講和談判の成果を疑ふ——第三國の干涉を豫想す

國難到々に迫る　驚國韓國に侵入す——義州に於ける露兵の暴行——撤兵中止、滿洲占領の露業——穩和派閣僚の辭職——クロパトキンの極東視察——寺內との會見

三千年の懸案解決　七日間で併合條約を了す——得意滿面宴席で櫻折れ——日韓當事者に論功行賞——著者の辯明

東京京橋區元數寄屋町
株式會社　北隆館
振替口座東京七五〇番
全國各地書店に有

社會學綱要

法學博士小林丑三郎先生序
バチエラー・オブ・アーツ峰田茂吉著
新刊
菊判上製函入五百八十頁
定價金三圓八十錢　郵送料金二十四錢

著者は純米國教育を受け近歸朝後專修大學其他に教鞭を取る新進社會學者也○本書は在來の社會學書と異り容易に社會學の原理を理解せしむべく社會學の性質及入門から筆を始め社會進化論、社會統制社會思想、社會病理學、社會研究方法等第六編三十七章に亙る大著作最近の學界に貢獻する事疑ず

◇發行所　東京市神田區今川小路二丁目　振替口座東京一七九六二　法曹閣書院

コール原著　改訂　田邊忠男譯

勞働の世界

勞働組合運動の現在及將來

菊判上製函入　定價三圓五十錢　送料二十四錢

上野へお遊びの節は
赤藤のパンとケーク
御用命上候（上野公園前）

COCKTAILS
AMATEUR STAND
DAIICHISOGO BLDG
KYOBASHI

總裁　久邇宮邦彥王殿下

明治大正 名作展覽會

◇會期　六月三日から同三十日迄
◇會場　上野公園東京府美術館

入場料 五十錢　學生 三十錢

明治初期に始まり狩野芳崖、橋本雅邦、川端玉章の遺作より文展、帝展、院展、その他あらゆる流派傾向を網羅した大正末期に亘る六十年間の新日本美術が一堂に陳列された盛觀を想像せられよ！宮內省より御物八點の御貸下を始め帝室博物館、文部省、東京美術學校、原富太郎氏、細川侯、住友男岩崎男爵の多數出品の外所藏家は全國に及んでゐる

これ等の傑作は奧深く祕藏され、その一點を見るさへ容易でない、それを一堂に集めて年代順に展觀するのであるから展覽會それ自身が生ける美術史である、陳列する日本畫百九十四、洋畫百六十五、彫刻百〇一、合計四百六十點、かゝる綜合的大規模の展觀は初期文展以來曾てあらざるところ、空前であり恐らくは絕後である

この有史の振古を展覽して大日本帝國美術の未曾有の大展覽會を見ずして過ぎるかたは勿れ!!

主催　東京朝日新聞社

エル、シー、エム、スマイズ共編
ニュー、イングリッシュ、ヒムナル（英語讚美歌）
海老澤亮著
讚美歌歷史
四六版クロース金文字入　定價一圓　郵稅八錢

賀川豐彥序　ローガン博士著
創世記時代
四六版クロース五〇〇頁　定價二圓五十錢　郵稅二十二錢

ブローダス原著　千葉勇五郎譯
說教學
四六版總クロース金文字上製　定價二圓五十錢　郵稅十八錢

ヒル博士原著　遠藤能完譯
主の生涯の山巔
四六版總クロース箱入金文字上製　定價二圓　郵稅十二錢

松田孱三郎著
舊約の詩人と預言者
四六版上製三四〇頁　定價一圓六十錢　郵稅十二錢

發行及發賣所　教文館　東京銀座四丁目　振替東京一一七五三
教文館支店　東京市橋區一ノ橋丸善內

白揚社新刊

ボグダーノフ著（林房雄譯）
社會意識學概論
四六判新入　四百三十頁　定價貳圓貳拾錢（送料金十七錢）

本書はマルクスに依つて與へられたる方法に依り、原始時代に於ける諸々の社會意識の崩壞形態より說起し、父家長制時代、封建時代、商業資本主義、工業資本主義、金融資本主義及社會主義時代に於ける、其の變化を簡明なる問答體に依つて闡述的統一的に究明したものである、道德、法律、哲學、宗教、科學、藝術等、即ち社會意識一般は如何にして發生し、變化し、現代に於ては如何なる方向を辿らんとしつゝあるかを知る事は無產階級運動に關心を有するものゝ直接必要事となつた今日、本書は無二の好伴侶たるを確信する。譯文は流暢にして明快、然も譯者一流の才筆縱横に溢るゝを見る。

ジノヴィエフ著　佐野學譯
マルクス・エンゲルスと戰爭問題
四六判並製　二百頁　定價金九十錢　送料金十錢

ブハーリン著　佐々木孝丸譯
社會民主主義の行方
四六判並製　二百三十頁　定價金一圓廿錢　送料金十二錢

ブハーリン監修（山川均譯）
政治教育講話
四六判新入　四百五十頁　定價金二圓廿錢　送料金廿一錢

現代政治に對する廣汎な基礎知識を、嚴正なる無產的立場から最も平易、明快、懇切、周到に講述した比類なき教科書、參考書、自修書である。章を分つこと七、節を分つこと無慮二百頁目に上り、苟も現代政治に關する有りゆる問題を網羅して剩まる處なく、問題に當面する毎に之を繙けば、一個の立派な政治辭典の用をなす。而も本書は從來の政治書の如く斷片的のものではなく、經濟學の基礎より資本主義の發展、帝國主義と戰爭問題、社會の變革等々、系統的統一的に敍述されて秩序燦然、實に政治鬪爭に進出した新興階級は本書に依つて武裝する事が出來る。

ニコライ・レーニン著　山內封介譯
一歩は前へ二歩は後へ
四六判並製　二百頁　定價金一圓廿錢　送料金十錢

高橋正男譯
ゴーリキイへの手紙
四六判並製　二百三十頁　定價金壹圓　送料金十錢

ジョン・ステン外二氏著　廣島定吉譯
資本主義安定の諸問題
四六判並製　百八十頁　定價金八十錢　送料金六錢

ニコライ・レーニン著　山內封介譯
ソヴエート聯邦の內外政策
四六判並製　二百余頁　定價金壹圓　送料金十二錢

スタリーリン著　山內封介譯
理論家としてのレーニン
四六判並製　百三十頁　定價金六十錢　送料金六錢

ブハーリン著　櫻原惟人譯
伊太利に於ける ファシズム運動
四六判並製　百七十余頁　定價金八十錢　送料金十錢

アキラ著（廣島定吉譯）
革命後の文學
四六判並製　百三十頁　定價金六十錢　送料金六錢

我々は今日世界の到る處に反動の跋扈を見る。イタリーのファシズムも亦危機に直面せるブルヂョアジーの反動手段であつて、各國共通の現象と云ひ得る。世界のプロレタリアートはイタリーのファシズムの本質を認識して、其の實例から教訓を學びとる事に依り、ブルヂョア反動の禍根を防止せねばならぬ。本書は先づファシズムの歷史的社會的意義を究明し、その內部に存する矛盾を暴露すると共に、現實政策を絕叫しながら、尖銳化せる階級鬪爭の現實の前には眼を閉ぢて、意識的に勞働階級を誑かし、かくして無產階級の戰線を亂すファシズム政策が、如何に無用の機性を勞働階級に强ひつゝあるかを示して居る。明徹なる考察、辛辣なる批判、譯者の名文と相俟つて近來の快著である。

高橋龜吉著
左翼運動の理論的崩壞
四六判新入　二百三十頁　定價金壹圓　送料金十二錢

デボーリン著　井上滿譯
弁證法的唯物論への入門
四六判並製　五百八十頁　定價二圓　送料金廿一錢

◉發兌　東京神田美土代町二の一（電話神田二三八五）　振替東京二五四〇〇番　白揚社

飢餓王 上卷

アンドレエフ傑作戲曲選集

原作者の思想と藝術を後世に傳ふべき不朽の記念塔眞に劇壇空前の大選集

廣汎深遠な想識、深刻精緻な筆致、兩々相待つて全世界の劇文壇を風靡せしアンドレエフ傑作戲曲選集は我が劇壇の新人熊澤復六氏が精練無比の譯筆によつて成る露西亞劇文壇の巨匠として、亦表現派の先驅者としての原作者の全面容は本選集によつて完全に現はさる

上卷は思想の深淵にして樓想の雄大なる著者代表的象徵戲曲三篇を選出す。「飢餓王」は無產階級にして生る思想の破壞を主題にせる七幕物。「天涯」は世界を寰はんとして生る思想の破壞を主題にせる七幕よりなる全作品中最優秀の壯大なる雄篇

能澤復六譯
四六判　六百餘頁　クロース裝美本　定價三圓五十錢　七百部限り　特價金參圓　料書留二十錢

六月十五日出來

綿貫二郎曲部

露文豪アンドレエフ傑作戲曲選集下卷愈々出版さる！

弊社は我が劇文壇の新人露文學者熊澤復六氏の流麗な譯筆によつてアンドレエフ戲曲選集を完成し得たのを無上の欣びとす。萬人必携の書。下卷——作者の宮實方面を代表する心理劇三篇。古來之程深刻赤裸々に戀愛の三角四角關係を主題にして、男女間の性慾の爭鬪を描いたものは一つもあるまい。「嘘さも近來流行の全集本は勿論、未だ曾つて紹介されたことがなく、殊に「アンフイイサン」「ストリツイン教授」の二篇は難解なためか、或は餘りにも露骨な描寫のためか、世界の何れの國語にも飜譯されて居ない。本書が飜譯の嚆矢である。

四六判　伊藤深湖氏裝幀　實費　金三圓　送料十八錢
上下共に御注文の方に限り特に實費五圓で御頒ちす。

北村小松氏著
猿から貰つた柿の種
四六判布製函入　四〇〇頁　定價　壹圓九拾錢　送料　書留十八錢

スカートをはいたネロ
戲曲集　他五篇
村山知義氏著

發行日　六月の廿五日

劇壇の人氣を沸騰させ、戲曲界注目の焦點こなれる著者北村小松氏の出現ころである。本書に納むる八篇は悉くこの精粹を擇ばれしもの、就中「猿から貰つた柿の種」は四幕地小劇場公演に際し上演を禁止され本書も又發禁の憂を禁止されんとした問題の戲曲。見逃し勿れ

本書は著者村山知義氏の自選になる會心の作のみを集めた第一戲曲集である。

取材の奇、構想の異、寫實の妙、氏の筆の冴は全く神技に無幾しといふべく、何人も追隨を容さざる獨壇場にして一作毎に行詰まれる本邦劇壇を打開する革命的な傑作品ばかりで、一大センセイショウを捲起してゐる、氏の藝術心境を愛する者はいはずもがな、苟も氏の藝術を是非せんとする者は、本書を逸脫して語を爲し得べからず。

內容
迫死式
闘の西警
仕事行進曲
廣場のベンチで
孤子の處置
見を割せよ
勇ましき主婦
踊子になつた書記の妻
スカートをはいたネロ
街路越しの殺人事件
無宿者
女優

四六判　定價　送料　書留　廿二錢

新露西亞の研究

革命後の文學
マクシモフ著　秋山榮六譯　價八十錢
本書は勞農ロシヤの大批評家マクシモフの周到明敏な觀察眼を以て現勞農ロシヤの文學の推移を細大漏らさず論述され且新作家とその作品を公平に批判紹介されたものである眞の勞農ロシヤの實狀を研究せんと欲する士殊に文學に於て正鵠な論據に立せんとする學徒の必讀の良書たるは勿論絕好の參考資料である。敢て繙讀を待つ。原語譯を誇る。

トルストイとマルクス
ルナチヤルスキイ著　金田常三郎譯　八十錢
勞農ロシヤの見た藝術界の巨星トルストイと思想界の巨人マルクスはブ〇〇思想家にして藝術家たる現勞農ロシヤの文部大臣ルナチヤルスキイが批判論據は眞の勞農ロシヤの實狀を識る絕好の資料である。何人も一讀して現ロシヤの眞狀を知れ。

發行日　六月の廿五日

圖書時報　進呈　東京西大久保五〇八　電話四谷三六五九番

原始社　東京市本郷區淸見女林堂

社説

學生は學友會を如何に支持すべきか

吾人は此處に自治機關としての學友會は何を使命とすべきか？及びそれに關連して一般學友會員は如何に創られなければならないか？の問題を問題とする。

「政治の教育關係に於ける疑問」（本紙第四十六號所載）は更に次なる段階を過程しなければならない。

△　△

編緒に吾人は、如何にして物を結合すべきか？と云ふ問題に遭遇する。

吾人は現在の學校、現在の科學より何を繼承すべきであらうか？現在の學校は斯く宣言して居る、「我々は學生をあらゆる方面に於て敬愛ある人となし、科學的智識を授けるものである」と。

けれどもこれは微頭徹尾虚僞である事を吾人は知つて居る。何んとなれば全社會は人類を階級――搾取者と被搾取者――に分つことの上に基礎を置き、それによつて存續して居るからである。

然して凡ての學校も此の社會的條件の上に建てられて居り、徹頭徹尾階級的精神を以つて滿され一つの階級の利益に適合する教育のみを施して居ることを知るからである。即ち現在の學校は一の階級へ必要なる從僕のみを生産するを目的として居る。從つて教授をして一つの階級に必要なる事のみを書き、且つ喋らなければならない樣な人間となして居る。そして斯くする事によつてのみ彼等は自己の安全を自認して居る。更に斯くする事を歴史的必然なるかの如く觸して居る。

故に吾人が今日見得る現象のすべては歴史的必然を除ぺいして居る外の何者でもあり得ない。

△　△

現在の學校内におけるあらゆる疑問を展開解決するにはまづそれが過程して居る下層建築から始められねばならない。然して吾人がかゝることを究明する事は、同時に人類が蒐集した有用なるすべてのものを採用してはたらぬといふ事を意味するのであらうか？

吾人はこゝにおいて何を味ふべきか？現在の學校、現在の科學より何を採用すべきか？を考へなければならぬ。即ちまづ編緒において問題の内容を規定し、資料を選擇しなければならない。

次に如何にして學ぶべきかといふ方法論が考へられねばならない即ち「もつとも正しい研究方法があつて始めてもつとも正しいものを究明し得る（ヘーゲル）のである」しかして究明し得るゝものは「如何にして」「如何にあり」「如何にあらねばならぬ」かである。

△　△

學生の唯一の自治機關として與へられて居る學友會の使命を究明するにも必然前項の社會的條件による研究法が採用せられねばならない。この研究法を無視したる形而上學的研究法を以てするならば吾人は眞に正しきものを究明する事に不可能である。

從つて學生（一般學友會員）は如何に創らねばならぬかは到底究明し得られない。

△　△

極年行はれる學友會の豫算分配なる學生大會を見る時、あの醜惡なる現象が繰り返へされるは、學友會員自身が豫算の如何なるものであるかを究明しようとしないからである。

單に過去の歴史が斯くあつたからのみを考へ、更に經濟條件が規定されて居るにも係らず無制限に空想をめぐらすからである。

吾人は斯くの如き單なる形而上學的方法に依ては到底問題の解決は不可能なる事を確信す。よしあきらめて主義によるとしてそれは能動的人類社會の否定の外何ものでもあり得ない。事實の反影たる觀念を例へば好意の如き以つて直ちに豫算分配の條件を規定せんとするが如き又先に經濟問題を唯一の新人部反對の條件として為すから後には前項の條件を放棄せざるを得なくなるが如きは、之皆豫算の認識不足によるものである。

△　△

豫算分配に當りて吾人が考へなければならない事は、過去の歴史が如何にあつたかではなく、斯くの如き歴史が如何にして創られたかである。更にそれが下層建築上に如何に建設されたかである。然る後始めて「後方への旅」が始められねばならない。即ち斯くするこゝによつてのみ吾人は學友會豫算の如何なるものであるを正しく認識し得るのである。從つてそれは如何に分配せられねばならぬかが過程され得る。

△　△

吾人は吾人の有する學友會の使命が何であるか、又吾人が學友會員として如何にあらねばならぬかを正しく認識する爲めに最も正しい研究法を採用せられん事を願ふものであるそしてそれは大學生活の充實の爲めにも。

△　△

費は之を選擧人が出費する事、の二標語を掲ぐ、既政財閥政黨の醜惡を非難より「財閥政治の非難は妥當なるも現實に於ては如何ともしがたし」と、「政治惡を根本的に除去するには政治と經濟との關係を明かにせねばならぬ」等の意見費出し、眞の政治革正は四二項によるのみであるゝ述べるや、學生側局學生側の意見もそれが方法論的に纏まらなかつたため効をなさず。尾崎氏の政治によつて經濟組織の變革をなし得るにお茶をにごし十時廿分閉會した。

財閥政治を暴露し普選に具へよ

上野に學生連を招聘して　尾崎氏獅子吼す

寒年の普選を控へて各政黨の詭部連が血眼になつて作戦をこらして居るをりから、革新黨の尾崎行雄氏は學生ゝ云ふ毛色の變つた處へ先手をつけ、各大學の新聞學會雄弁會、國際聯盟等の猛者連を去る八日上野の淵松亭へ案内して蔭耳に政見を交換した。集まる者七十餘名尾崎氏立ちて「普選の準備に關し一、各政黨をして其收支計算を公表せしむる事、二、選擧費は之を選擧人が出費する事、の二標語を掲ぐ、既政財閥政黨の醜惡を非難より「財閥政治の非難は妥當なるも現實に於ては如何ともしがたし」と、「政治惡を根本的に

ラ總理邸に於ける相澤氏送別會
右より元田前學長、藤井氏、相澤氏、杉浦學長、永井氏、ラ總理

留守を襲つて然かも慘敗

第二軍の對早大戦

今秋リーグ戦の本學のスケチュルは無敗戦を最後として終末を告げた。今期は早大軍の凱歌に終りリーグの興味の大半はそがれた感があつた。本學野球部は法政を除く他全敗の香ばしからざる成績であつたとしてリーグ最下位の戦績であつた去る廿五日は番外として早大留守軍と對戦した、此の日本學は網岡を早稲田川をプレートに送りアウトカーブとアンダスローの對抗であつた、聊茶の弟ご全部は早大のファンで埋められ相當無覺醒の鋒次を飛ばしてゐた。本學は此の一戦は敗るれば最こなり勝つても何等の名誉にもならないけれども兎も角第二軍を持つて必死となつて對戦したが攻撃力にとぼしい本學は源川にあつさり牛耳られて手も足も出ず遂に六對零にて敗退した

◇　◇

第二回戦は二十六日戸塚球場で堪行されたが微温な魅力のない平凡な試合だつた早は第一回戦の疲勞者源川を本學は網岡を立てたが矢張り牛耳られ僅に四回六回チャンスありしも遂に最後迄源川の外に流れるカーブをフアウルレバッター、インザ、ボールに落ち入つてゐたのか目立つてゐた結局四人對二で再敗

今春の野球に

寄せ出感るたれらぞ

技倆は伯仲だが勝運がなかつた

【小島茂雄氏談】

裏門家でない門から裏門家的なことは言へませんが、只一つ私の感じたことは、決して我田引水の意味でなく立教は勝負には負けたけれどリーグ中で一番スポーツマンシップを持つてゐたと言ふことです。このことは、ファンの間に、立教は動作なこが一番しつかりしてゐると評判されてゐることでもわかるでせう。私の友人の明治の教授ゝ云ふ方ではこの試合を見てゐる立教は他に比べて決して波浪が多つてゐると思はれない。この點神を發揮して戦ふなら、もつとよい成績をあげ得ると思ひます。私は元來負けず嫌いで負けたことは如何にも殘念ですが、立教の選手は常野者に對しても敗從の美德を有し、決して傲慢心を示す樣なことがなかつた等茲に具體的の例はありませんけれども、ここになく上品な所のあるのに聊か感められました。今後もこの運動精神を發揮し活躍せらんことを希望します。

連絡と緊張味缺けてゐた

【藤井隆太郎氏談】

今シーズンは敗が多かつたのは殆んどこれ人さす各試合を見物したが、本學はず、戦勝順位の如き最下位であるこゝは何に も遺憾に堪へない。その敗因としては、第一にチームとしての連絡一が缺けてゐたこゝ、第二に主將の成命が行はれず從つて、各選手に緊張味が著るしく缺けてゐたこゝ、第三に主將の成命が行はれず從つて、各選手に緊張味が著るしく缺けてゐたこゝ、第三に主將の成命が行はれず從つて、各選手に緊張味が著るしく缺けてゐたこゝ、第三に主將の成命が行はれず從つて、各選手に緊張味が著るしく缺けてゐたこゝ、第三に主將の成命が行はれず從つて、各選手に緊張味が著るしく缺けてゐたこゝ、第三に主將の成命が行はれず從つて、各選結果、こうすればなげやり的な試合をしてゐたやうに見うたこゝで

顧問相澤淵氏のトロントゆき

教育會議代表として

十一日太洋丸にて出發

本年八月加奈陀トロント市に於て開催の萬國教育會議に日本代表として出席せらるゝ本學會顧問、國民新聞教育部長相澤淵氏は一行の澤柳博士等より先發して十一日午後三時横濱出帆の郵船大洋丸にて颯爽立ちした。當日は山崎、栗屋兩文部次官を始め松浦教育局長、澤柳教育會長、其他教育界、學界の名士數十名の見送りあり本學會よりは代表者數名午前十一時氏を東京驛に見送り直に横濱まで同行し出發見送りをなした。なほ相澤氏は語る、今回の旅行は勿論萬國教育會議に列席するのが主要目的であるが同時に歐米各國の教育家に親しく教育上の意見を交換し國際間の親善をはかりたいこと思つて居る。殊に我國の教育は小學教育の如き世界第二位ゝ稱せられる位に發達してゐるけれども日本そのものが何處まで親しく教育上の意見を交換し國際間の親善をはかりたいこと思つて居る。殊に我國の教育は小學教育の如き世界第二位ゝ稱せられる位に發達してゐるけれども日本そのものが何處までがロンドンの小學校の教科書にはジャパニズ・レディ等ゝ記載されてゐるが如きは間違ひも甚だしいゝ思ふ云々、ゝ非常な意氣込みで出發せられたが、日本教育界としても氏の歸朝土産を期待してゐるは勿論本學としても氏の彼の地に於ける新聞談を唯一の土産として待つのである。因に同氏の歸朝は多分十一月頃ゝの事である。

ラ總長邸に送別會

相澤淵氏今回の外遊に就いて本學總長ライフスナイダー氏は同氏を五日構内自邸に招待し送別午餐會を開き元田監督、杉浦學長、朝日新聞社外報部長永井義助氏、本學會編輯指導部長井熊太郎氏の陪席に同氏今回の外遊を中心にして歴時の懇談を交換し午後三時散會した。

校友訪問記

石橋を叩いて……今をかち得た

常盤生命の專務取締　吉田榮右氏の苦心

「古い話だ」が僕が英語をキリスト教の傳道に從つたと云ふ始めた頃――明治廿四五年――ここである。

所がその傳道が餘る手に入つた

中央線千　鳳ケ谷驛から六七分、八幡宮の傍――閑靜な場所にあるのが、我が校友の巨人、常盤生命專務吉田榮右氏の高莊な邸宅である。朝露がしつとりと降りた五月のある朝、記者はこゝみ玄關に刺を通じた。……校友訪問である。

「僕は立教　大學がまだセント・ポール英語學校ゝ云つて築地にあつた時代に今の杉浦學長ゝ同學でした」

裕福さ――微笑む氏の六十余の齢ひにふさわしく――を遺憾なく表現したかの如き莊大な歐風の應接室に快く記者を引後した。常識に富んだ立派な中老紳士である。

氏の思ひ　出話の大要はかうだ。

青年時代余り經濟的に恵まれなかつた氏は、今日の大學に入学するまでの苦心は、ひとしおであつたに違ひない。

苦學――　牧師――教師――實業家――、かうした氏の變轉した生活の跡をつぶさに教へられた記者の頭に浮んだ結論はかうだ

「青年よ！　努力せよ！」

余りかも平凡なこゝろ、しかも、氏の人生觀に刺を通じた。

「財界の今　後はどうでせう」話題一變、過渡の大パニックに襲はれた財界の模樣を伺へば「信用を根底としてゐる現在經濟組織では、一般社會人が絶對に財界に信用を置かない限り、根本的安定は難しいものです。併し私の推測によれば恐らく九月以後は大體安定するのではないかと思ひます。」

氏の思ひ　出話の大要はかうだ。

青年時代余り經濟的に恵まれなかつた氏は、今日の大學に入学するまでの苦心は、ひとしおであつたに違ひない。

「古い話だ　が僕が英語をキリスト教の傳道に從つた云ふ始めた頃――明治廿四五年――ここである。

所がその傳道が餘る手に入つた

氏の思ひ　出話の大要はかうだ。

青年時代余り經濟的に恵まれなかつた氏は、今日の大學に入学するまでの苦心は、ひとしおであつたに違ひない。

「財界の今　後はどうでせう」話題一變、過渡の大パニックに襲はれた財界の模樣を伺へば「信用を根底としてゐる現在經濟組織では、一般社會人が絶對に財界に信用を置かない限り、根本的安定は難しいものです。併し私の推測によれば恐らく九月以後は大體安定するのではないかと思ひます。」

苦學――　牧師――教師――實業家――、かうした氏の變轉した生活の跡をつぶさに教へられた記者の頭に浮んだ結論はかうだ

「青年よ！　努力せよ！」

余りかも平凡なこゝろ、しかも、氏の人生觀に刺を通じた。

「僕は立教　大學がまだセント・ポール英語學校ゝ云つて築地にあつた時代に今の杉浦學長ゝ同學でした」

裕福さ――微笑む氏の六十余の齢ひにふさわしく――を遺憾なく表現したかの如き莊大な歐風の應接室に快く記者を引後した。常識に富んだ立派な中老紳士である。

氏の思ひ　出話の大要はかうだ。

青年時代余り經濟的に恵まれなかつた氏は、今日の大學に入学するまでの苦心は、ひとしおであつたに違ひない。

「財界の今　後はどうでせう」話題一變、過渡の大パニックに襲はれた財界の模樣を伺へば「信用を根底としてゐる現在經濟組織では、一般社會人が絶對に財界に信用を置かない限り、根本的安定は難しいものです。併し私の推測によれば恐らく九月以後は大體安定するのではないかと思ひます。」

苦學――　牧師――教師――實業家――、かうした氏の變轉した生活の跡をつぶさに教へられた記者の頭に浮んだ結論はかうだ

「青年よ！　努力せよ！」

余りかも平凡なこゝろ、しかも、氏の人生觀に刺を通じた。

「僕は立教　大學がまだセント・ポール英語學校ゝ云つて築地にあつた時代に今の杉浦學長ゝ同學でした」

裕福さ――微笑む氏の六十余の齢ひにふさわしく――を遺憾なく表現したかの如き莊大な歐風の應接室に快く記者を引後した。常識に富んだ立派な中老紳士である。

氏の思ひ　出話の大要はかうだ。

青年時代余り經濟的に恵まれなかつた氏は、今日の大學に入学するまでの苦心は、ひとしおであつたに違ひない。

「財界の今　後はどうでせう」話題一變、過渡の大パニックに襲はれた財界の模樣を伺へば「信用を根底としてゐる現在經濟組織では、一般社會人が絶對に財界に信用を置かない限り、根本的安定は難しいものです。併し私の推測によれば恐らく九月以後は大體安定するのではないかと思ひます。」

苦學――　牧師――教師――實業家――、かうした氏の變轉した生活の跡をつぶさに教へられた記者の頭に浮んだ結論はかうだ

「青年よ！　努力せよ！」

余りかも平凡なこゝろ、しかも、氏の人生觀に刺を通じた。

「僕は立教　大學がまだセント・ポール英語學校ゝ云つて築地にあつた時代に今の杉浦學長ゝ同學でした」

裕福さ――微笑む氏の六十余の齢ひにふさわしく――を遺憾なく表現したかの如き莊大な歐風の應接室に快く記者を引後した。常識に富

セントポールよ！さよなら

懐しの學園に別れを告げて歸米するブランスタッド氏

秋頃故郷ネブラスカへ歸らるゝ豫定であるこ

（寫眞は同教授）

任期滿ち　來る二十八日、東京驛發列車にて出發、朝鮮シベリヤ經由にて、故國北米合衆國に歸らるゝこゝになつた。之に就いて氏を問へば、友人こゝ常に定住する一土地に家族、家族こゝ出來るならば、人生は實に愉快に進ひない。今回セント・ポールを去らねばならなくなつた私は實に悲しみに堪へない。この三年の生活は余りに愉快だつたから。私はもう一度是非日本に來たい。

尚氏は　歸途ドイツに二三ケ月滯在し、學業を研究し、今度は非日本に來たい。

こゝ感慨深げに語つた。

氏の思ひ　出話の大要はかうだ。

青年時代余り經濟的に恵まれなかつた氏は、今日の大學に入学するまでの苦心は、ひとしおであつたに違ひない。

「財界の今　後はどうでせう」話題一變、過渡の大パニックに襲はれた財界の模樣を伺へば「信用を根底としてゐる現在經濟組織では、一般社會人が絶對に財界に信用を置かない限り、根本的安定は難しいものです。併し私の推測によれば恐らく九月以後は大體安定するのではないかと思ひます。」

苦學――　牧師――教師――實業家――、かうした氏の變轉した生活の跡をつぶさに教へられた記者の頭に浮んだ結論はかうだ

「青年よ！　努力せよ！」

余りかも平凡なこゝろ、しかも、氏の人生觀に刺を通じた。

「僕は立教　大學がまだセント・ポール英語學校ゝ云つて築地にあつた時代に今の杉浦學長ゝ同學でした」

裕福さ――微笑む氏の六十余の齢ひにふさわしく――を遺憾なく表現したかの如き莊大な歐風の應接室に快く記者を引後した。常識に富

KIRIN BEER
最古の歴史
キリンビール
最新の設備

風薫る緑樹の下
近郊隨一の別天地
鮎漁御案内
御料理旅館
宴會は特に御便宜
京王線多摩河原
玉華樓
電話調布三

吾妻温泉
入浴御隨意

鮎漁御案内所
旅館御料理
江戸前
多摩河原調布

コスモス園
温泉貸席
川魚御料理
京王線多摩河原驛前
新宿　二葉家分店

近郊隨一の樂園
多摩河原鮎漁
御案内
割烹
塚善
多摩河原
第二支店
電話六番
多摩河原公園
第三支店
電話六番

○多摩川原遊園京王閣御案内○

櫻の多摩川　春の多摩川原遊園、稲田堤の櫻の麗はしさは、新小金井として久しく都人士の間に聞こえたもの、川のかなたに、雲か霞か棚引く櫻の中に隠れる揚雲雀の聲を聞きながら、れんげ、たんぽゝ、すみれの摘草に長閑な春の日永の一日を暮すのも盡きぬ興があります

鮎の多摩川　夏ともなれば、名高い向ケ岡の緑は滴らんばかり、川面には涼風湧き、瀬には若鮎の躍る影舟を浮べて、漁り立ての多摩川名物鮎に舌鼓を打つ快は、現世無二の水上樂園で多摩川筋でも關戸からこのあたりは鮎漁の最好適地といはれてゐます

多摩川の甘藷掘　京王名物甘藷掘競爭は秋の多摩川に止めを刺します。瀬の鮎落ち錆びて、野山の紅葉色濃く尾花の末に赤い大きな夕日がうすづくまで罪のない甘藷掘競爭に笑ひくづれる、逸興は多摩川でなければ味へません

雪の多摩川　冬の日京王閣の窓越しに眺める雪の武藏野多摩川の絶景も、これから世に廣まる事でございませう

若し月明かに星稀な冬の夜、河畔を逍遙すればいづくともなく川千鳥の群れの、風に吹かれて、波に飛び散り鳴き亂れる樣が、詩人の筆を投ぜしめるものがあります

京王閣は鐵筋コンクリート三階建總坪一千二百坪の新造大建築でこれを武藏野の大望樓、多摩河畔の魔天樓と申しても、過言ではございますまい。全部新しい、明るい、清い、愉快な、美しい構造備となし、次の樣な誤樂器具が總て整頓し網羅してあります

大浴室（入浴無料）圓形の總大理石造りであつて男女の二室に分れ各室一時に百人を收容されます。そして大浴槽はドイツ製のモントサン靈浴であります。其の外ラヂオカルク湯、土耳古風呂もあります

兒童遊戯室　御子樣方の爲め、面白い樣々な御遊び運動具が供へつけてあります

音樂室　ピアノ、オルガン、ヴアイオリン、マンドリン等を備付けてあります。一隅には圖書閲覽台を設け繪本雜誌等が取揃へてあります

美容室　マリールイズ化粧院から出張されて居ります

ピンポン室（無料）

喫茶室　種々の爽かな御飲みものを調理いたします

大食堂　西洋料理部、日本料理部共有數の腕利者を各主任として美味、低廉共に顧客各位の御稱讃を博する事を確信して居ります

客室及同附屬風呂　一時間金壹圓、半日金參圓、一日金四圓

碁將棋室（無料）

玉突室（料金八錢以上）

階上納涼台　武藏野の大眺望台です。多摩川の清流は脚下に、品川、大森の聚落一眸の下に集まり遠くは富士の秀峰を初め、相武の山々呼べば答んへとし、北へ青く走る秩父の山々、白きは川、黑きは森、大武藏野は一大パノラマの如く京王閣をめぐつて廣げられるのであります

場内庭園

◇メリーゴーランド（料金一回金五錢）

◇迷園　一度足を歩み入れると何處が出口かわからなくなり可笑しさ加減自ら苦笑を禁じ得ません

◇渡渉地　一尺許りの清き水の中を飛び廻る童の無邪氣の遊び見るだに氣持の良いものです

◇各種聯結體操具　すべり台、ぶらんこ、梯子、金棒等の現代式の運動具を羅列してあります

多摩河原迄往復五十六錢

京王電車

校友消息

◇藤井隆太郎氏　十五日諸聖徒教會において「現代ヂヤナーリズムの傾向」を講演

◇谷内卯吉氏　共保生命保險會社は在職中の蔭姓佐藤氏は今回谷内家の養子となり秋田縣能代港品町に轉居

◇關口辰雄氏　去月十六日直江津聖公會に於て結木ムメ子氏と結婚され船木と改姓

◇江尻登氏　大阪瓦斯會社に在職中の同氏は大阪市外吹田町松ケ鼻一〇九四に移轉

◇森田榮次郎氏　今春より鐵道省運輸局總務課外國鐵道調査係に勤務さる

◇野々村剛氏　府下和泉町七五に轉居さる

◇兒島代吉氏　中學教員生活を辭し今回講談社調査部嘱職さる

◇陶山俊介氏　横濱支店在勤の所去月二十六日敷寄屋橋際日本興業銀行本店出納課へ榮轉

時間空間

慣例法を以つて總て經驗上合理的なりとなすならば、改新は總て無經驗なるが故に不合理なりとなさざる可からず。

利害相反する者なるが故に徹頭徹尾反對すべしこゝふ理論は、今の政黨政治屋にそつくり。

一刻の猶惡反抗もやがては永遠の賞讃ゝ變す。改革又革新乎。

水野文部學閥特權撤廢の第一歩として、三土前文相から受驚いだ置土産。今更異論なし。

次いでに博士號の廢止もこんなものでせう。

不朽の天才を懐いて而かも凡才に終る人生最大の悲劇。豊學士號のみならんやだ。微塵はよし、塵やれ。

東大社會科學研究會、猪俣を強り誉へてやうやく獨立の願望を達す。「社會科學」、さても偉なるかな此の一句。

支那撤兵の口實、出兵の口實にあなし。早計果斷の嗣、撤兵即桂冠に價す。

時事

櫻の多摩川　春の多摩川原遊園、稲田堤の櫻の麗はしさは、新小金井として久しく都人士の間に聞こえたもの、川のかなたに、雲か霞か棚引く櫻の中に隠れる揚雲雀の聲を聞きながら、れんげ、たんぽゝ、すみれの摘草に長閑な春の日永の一日を暮すのも盡きぬ興があります

鮎の多摩川　夏ともなれば、名高い向ケ岡の緑は滴らんばかり、川面には涼風湧き、瀬には若鮎の躍る影舟を浮べて、漁り立ての多摩川名物鮎に舌鼓を打つ快は、現世無二の水上樂園で多摩川筋でも關戸からこのあたりは鮎漁の最好適地といはれてゐます

多摩川の甘藷掘　京王名物甘藷掘競爭は秋の多摩川に止めを刺します。瀬の鮎落ち錆びて、野山の紅葉色濃く尾花の末に赤い大きな夕日がうすづくまで罪のない甘藷掘競爭に笑ひくづれる、逸興は多摩川でなければ味へません

雪の多摩川　冬の日京王閣の窓越しに眺める雪の武藏野多摩川の絶景も、これから世に廣まる事でございませう

若し月明かに星稀な冬の夜、河畔を逍遙すればいづくともなく川千鳥の群れの、風に吹かれて、波に飛び散り鳴き亂れる樣が、詩人の筆を投ぜしめるものがあります

青木選手早の大橋を破る

庚申家庭球研究會主催ダブルス戦は、第一回戦、第二回戦、第三回戦、第四回戦、第五回戦、第六回戦、第七回戦、第八回戦、第九回戦、第十回戦、第十一回戦、第十二回戦、第十三回戦、第十四回戦、第十五回戦、第十六回戦、第十七回戦、第十八回戦、第十九回戦、第二十回戦、第二十一回戦、第二十二回戦、第二十三回戦、第二十四回戦、第二十五回戦、第二十六回戦、第二十七回戦、第二十八回戦、第二十九回戦、第三十回戦、第三十一回戦、第三十二回戦、第三十三回戦、第三十四回戦、第三十五回戦、第三十六回戦、第三十七回戦、第三十八回戦、第三十九回戦、第四十回戦、第四十一回戦、第四十二回戦、第四十三回戦、第四十四回戦、第四十五回戦、第四十六回戦、第四十七回戦、第四十八回戦、第四十九回戦、第五十回戦、第五十一回戦、第五十二回戦、第五十三回戦、第五十四回戦、第五十五回戦、第五十六回戦、第五十七回戦、第五十八回戦、第五十九回戦、第六十回戦、第六十一回戦、第六十二回戦、第六十三回戦、第六十四回戦、第六十五回戦、第六十六回戦、第六十七回戦、第六十八回戦、第六十九回戦、第七十回戦、第七十一回戦、第七十二回戦、第七十三回戦、第七十四回戦、第七十五回戦、第七十六回戦、第七十七回戦、第七十八回戦、第七十九回戦、第八十回戦、第八十一回戦、第八十二回戦、第八十三回戦、第八十四回戦、第八十五回戦、第八十六回戦、第八十七回戦、第八十八回戦、第八十九回戦、第九十回戦、第九十一回戦、第九十二回戦、第九十三回戦、第九十四回戦、第九十五回戦、第九十六回戦、第九十七回戦、第九十八回戦、第九十九回戦、第百回戦、第百一回戦、第百二回戦、第百三回戦、第百四回戦、第百五回戦、第百六回戦、第百七回戦、第百八回戦、第百九回戦、第百十回戦、第百十一回戦、第百十二回戦、第百十三回戦、第百十四回戦、第百十五回戦、第百十六回戦、第百十七回戦、第百十八回戦、第百十九回戦、第百二十回戦、第百二十一回戦、第百二十二回戦、第百二十三回戦、第百二十四回戦、第百二十五回戦、第百二十六回戦、第百二十七回戦、第百二十八回戦、第百二十九回戦、第百三十回戦、第百三十一回戦、第百三十二回戦、第百三十三回戦、第百三十四回戦、第百三十五回戦、第百三十六回戦、第百三十七回戦、第百三十八回戦、第百三十九回戦、第百四十回戦、第百四十一回戦、第百四十二回戦、第百四十三回戦、第百四十四回戦、第百四十五回戦、第百四十六回戦、第百四十七回戦、第百四十八回戦、第百四十九回戦、第百五十回戦、第百五十一回戦、第百五十二回戦、第百五十三回戦、第百五十四回戦、第百五十五回戦、第百五十六回戦、第百五十七回戦、第百五十八回戦、第百五十九回戦、第百六十回戦、第百六十一回戦、第百六十二回戦、第百六十三回戦、第百六十四回戦、第百六十五回戦、第百六十六回戦、第百六十七回戦、第百六十八回戦、第百六十九回戦、第百七十回戦、第百七十一回戦、第百七十二回戦、第百七十三回戦、第百七十四回戦、第百七十五回戦、第百七十六回戦、第百七十七回戦、第百七十八回戦、第百七十九回戦、第百八十回戦、第百八十一回戦、第百八十二回戦、第百八十三回戦、第百八十四回戦、第百八十五回戦、第百八十六回戦、第百八十七回戦、第百八十八回戦、第百八十九回戦、第百九十回戦、第百九十一回戦、第百九十二回戦、第百九十三回戦、第百九十四回戦、第百九十五回戦、第百九十六回戦、第百九十七回戦、第百九十八回戦、第百九十九回戦、第二百回戦、第二百一回戦、第二百二回戦、第二百三回戦、第二百四回戦、第二百五回戦、第二百六回戦、第二百七回戦、第二百八回戦、第二百九回戦、第二百十回戦、第二百十一回戦、第二百十二回戦、第二百十三回戦、第二百十四回戦、第二百十五回戦、第二百十六回戦、第二百十七回戦、第二百十八回戦、第二百十九回戦、第二百二十回戦、第二百二十一回戦、第二百二十二回戦、第二百二十三回戦、第二百二十四回戦、第二百二十五回戦、第二百二十六回戦、第二百二十七回戦、第二百二十八回戦、第二百二十九回戦、第二百三十回戦、第二百三十一回戦、第二百三十二回戦、第二百三十三回戦、第二百三十四回戦、第二百三十五回戦、第二百三十六回戦、第二百三十七回戦、第二百三十八回戦、第二百三十九回戦、第二百四十回戦、第二百四十一回戦、第二百四十二回戦、第二百四十三回戦、第二百四十四回戦、第二百四十五回戦、第二百四十六回戦、第二百四十七回戦、第二百四十八回戦、第二百四十九回戦、第二百五十回戦、第二百五十一回戦、第二百五十二回戦、第二百五十三回戦、第二百五十四回戦、第二百五十五回戦、第二百五十六回戦、第二百五十七回戦、第二百五十八回戦、第二百五十九回戦、第二百六十回戦、第二百六十一回戦、第二百六十二回戦、第二百六十三回戦、第二百六十四回戦、第二百六十五回戦、第二百六十六回戦、第二百六十七回戦、第二百六十八回戦、第二百六十九回戦、第二百七十回戦、第二百七十一回戦、第二百七十二回戦、第二百七十三回戦、第二百七十四回戦、第二百七十五回戦、第二百七十六回戦、第二百七十七回戦、第二百七十八回戦、第二百七十九回戦、第二百八十回戦、第二百八十一回戦、第二百八十二回戦、第二百八十三回戦、第二百八十四回戦、第二百八十五回戦、第二百八十六回戦、第二百八十七回戦、第二百八十八回戦、第二百八十九回戦、第二百九十回戦、第二百九十一回戦、第二百九十二回戦、第二百九十三回戦、第二百九十四回戦、第二百九十五回戦、第二百九十六回戦、第二百九十七回戦、第二百九十八回戦、第二百九十九回戦、第三百回戦、第三百一回戦、第三百二回戦、第三百三回戦、第三百四回戦、第三百五回戦、第三百六回戦、第三百七回戦、第三百八回戦、第三百九回戦、第三百十回戦、第三百十一回戦、第三百十二回戦、第三百十三回戦、第三百十四回戦、第三百十五回戦、第三百十六回戦、第三百十七回戦、第三百十八回戦、第三百十九回戦、第三百二十回戦、第三百二十一回戦、第三百二十二回戦、第三百二十三回戦、第三百二十四回戦、第三百二十五回戦、第三百二十六回戦、第三百二十七回戦、第三百二十八回戦、第三百二十九回戦、第三百三十回戦、第三百三十一回戦、第三百三十二回戦、第三百三十三回戦、第三百三十四回戦、第三百三十五回戦、第三百三十六回戦、第三百三十七回戦、第三百三十八回戦、第三百三十九回戦、第三百四十回戦、第三百四十一回戦、第三百四十二回戦、第三百四十三回戦、第三百四十四回戦、第三百四十五回戦、第三百四十六回戦、第三百四十七回戦、第三百四十八回戦、第三百四十九回戦、第三百五十回戦、第三百五十一回戦、第三百五十二回戦、第三百五十三回戦、第三百五十四回戦、第三百五十五回戦、第三百五十六回戦、第三百五十七回戦、第三百五十八回戦、第三百五十九回戦、第三百六十回戦、第三百六十一回戦、第三百六十二回戦、第三百六十三回戦、第三百六十四回戦、第三百六十五回戦、第三百六十六回戦、第三百六十七回戦、第三百六十八回戦、第三百六十九回戦、第三百七十回戦、第三百七十一回戦、第三百七十二回戦、第三百七十三回戦、第三百七十四回戦、第三百七十五回戦、第三百七十六回戦、第三百七十七回戦、第三百七十八回戦、第三百七十九回戦、第三百八十回戦、第三百八十一回戦、第三百八十二回戦、第三百八十三回戦、第三百八十四回戦、第三百八十五回戦、第三百八十六回戦、第三百八十七回戦、第三百八十八回戦、第三百八十九回戦、第三百九十回戦、第三百九十一回戦、第三百九十二回戦、第三百九十三回戦、第三百九十四回戦、第三百九十五回戦、第三百九十六回戦、第三百九十七回戦、第三百九十八回戦、第三百九十九回戦、第四百回戦、第四百一回戦、第四百二回戦、第四百三回戦、第四百四回戦、第四百五回戦、第四百六回戦、第四百七回戦、第四百八回戦、第四百九回戦、第四百十回戦、第四百十一回戦、第四百十二回戦、第四百十三回戦、第四百十四回戦、第四百十五回戦、第四百十六回戦、第四百十七回戦、第四百十八回戦、第四百十九回戦、第四百二十回戦、第四百二十一回戦、第四百二十二回戦、第四百二十三回戦、第四百二十四回戦、第四百二十五回戦、第四百二十六回戦、第四百二十七回戦、第四百二十八回戦、第四百二十九回戦、第四百三十回戦、第四百三十一回戦、第四百三十二回戦、第四百三十三回戦、第四百三十四回戦、第四百三十五回戦、第四百三十六回戦、第四百三十七回戦、第四百三十八回戦、第四百三十九回戦、第四百四十回戦、第四百四十一回戦、第四百四十二回戦、第四百四十三回戦、第四百四十四回戦、第四百四十五回戦、第四百四十六回戦、第四百四十七回戦、第四百四十八回戦、第四百四十九回戦、第四百五十回戦、第四百五十一回戦、第四百五十二回戦、第四百五十三回戦、第四百五十四回戦、第四百五十五回戦、第四百五十六回戦、第四百五十七回戦、第四百五十八回戦、第四百五十九回戦、第四百六十回戦、第四百六十一回戦、第四百六十二回戦、第四百六十三回戦、第四百六十四回戦、第四百六十五回戦、第四百六十六回戦、第四百六十七回戦、第四百六十八回戦、第四百六十九回戦、第四百七十回戦、第四百七十一回戦、第四百七十二回戦、第四百七十三回戦、第四百七十四回戦、第四百七十五回戦、第四百七十六回戦、第四百七十七回戦、第四百七十八回戦、第四百七十九回戦、第四百八十回戦、第四百八十一回戦、第四百八十二回戦、第四百八十三回戦、第四百八十四回戦、第四百八十五回戦、第四百八十六回戦、第四百八十七回戦、第四百八十八回戦、第四百八十九回戦、第四百九十回戦、第四百九十一回戦、第四百九十二回戦、第四百九十三回戦、第四百九十四回戦、第四百九十五回戦、第四百九十六回戦、第四百九十七回戦、第四百九十八回戦、第四百九十九回戦、第五百回戦、第五百一回戦、第五百二回戦、第五百三回戦、第五百四回戦、第五百五回戦、第五百六回戦、第五百七回戦、第五百八回戦、第五百九回戦、第五百十回戦、第五百十一回戦、第五百十二回戦、第五百十三回戦、第五百十四回戦、第五百十五回戦、第五百十六回戦、第五百十七回戦、第五百十八回戦、第五百十九回戦、第五百二十回戦、第五百二十一回戦、第五百二十二回戦、第五百二十三回戦、第五百二十四回戦、第五百二十五回戦、第五百二十六回戦、第五百二十七回戦、第五百二十八回戦、第五百二十九回戦、第五百三十回戦、第五百三十一回戦、第五百三十二回戦、第五百三十三回戦、第五百三十四回戦、第五百三十五回戦、第五百三十六回戦、第五百三十七回戦、第五百三十八回戦、第五百三十九回戦、第五百四十回戦、第五百四十一回戦、第五百四十二回戦、第五百四十三回戦、第五百四十四回戦、第五百四十五回戦、第五百四十六回戦、第五百四十七回戦、第五百四十八回戦、第五百四十九回戦、第五百五十回戦、第五百五十一回戦、第五百五十二回戦、第五百五十三回戦、第五百五十四回戦、第五百五十五回戦、第五百五十六回戦、第五百五十七回戦、第五百五十八回戦、第五百五十九回戦、第五百六十回戦、第五百六十一回戦、第五百六十二回戦、第五百六十三回戦、第五百六十四回戦、第五百六十五回戦、第五百六十六回戦、第五百六十七回戦、第五百六十八回戦、第五百六十九回戦、第五百七十回戦、第五百七十一回戦、第五百七十二回戦、第五百七十三回戦、第五百七十四回戦、第五百七十五回戦、第五百七十六回戦、第五百七十

多數決に異議無用
學友會豫算成る

會則よりも傳統
甦生學友會にまた暗流

全員一致賛成は運動會開催のみ

兩會對立は解決至難か

本年度學友會は會則草案承認の委員部長聯合會に於ては二十條を中心として議論沸騰して結局これは保留に決し、その他第八條削除、第十一、十三、二十六、二十九の各條は修正可決された事は既報の如くであるが一時は混亂に陥り紛擾を演じたので豫算委員會に於てこれが案を練り直しを豫想させたけれど、さしたる事もなく、例年の如く豫算分配慣例法に於て論本部長と議長との間に敵答あり、吉川君又慣例法を撤して**これは學藝會の壓迫の歴史に過ぎず新會則適用により甦生すべき本年よりはかゝる不合理案は改正すべし**と言ひ、議長これを是認して具體策を問ふや、吉川君は比例分配案は體育會二學藝會二の比率が理想なりと言ふ、これに對しては、殆んど根本的な反對意見なく、採決に入るや運動部無言の中に反對して否決されて結局慣例法二對一をもつて配分に決定して六月一日の總會に豫算決定をみる事になつた。此の事實は明かに、**過去の會則の最大欠陥を再び踏襲した事を意味し**、かくて學友會の本來の目的は撹乱せず、永久に體育會、學藝會の緊密的對立をもつて、毎年繰返されるであらう、總會に於ても、へき頭の會則承認は別項の如く修正されたが、前記の最大欠陥を醸す第二十三條は修正される事なく決定し、緊急動議立大新聞義務賛成案に於て又もや紛擾を繰返に陥り、怒號する者あり、運動部編對反對論を唱へて採決に入り多數に押されて否決され、總會に於ても又、完全に會則の不完全を曝露した。

新設部みな否決
會則も無駄

慣例と感情は昔のまゝ

既報豫算委員會は先づ緊急動議として「立教大學學友會陸上運動會挙行の件」を提議、賛成、雖誌新聞の三部より提出し、採決の結果可決されたが、豫算分配の際討議する事になり次に五部の大會可否の採決があつたが、次の如く否決された。

映畫	不賛	一四一
ホッケー	不賛	一三二
弓道	不賛	一五〇
乘馬	不賛	一四一
剣道	不賛	一三二

次に緊急議案「雖誌部を新聞雖誌部より獨立の件」の撤廃君それに就いて簡單なる説明あり、吉川君又賛成意見として、新聞、雖誌の本質論あり紛糾に二つは相容れずと叫ぶ、新聞の獨立論に及び、本案賛成せられたしと迫ぶ。

これに　對し坂口部長立つて「豫算内で分離するのかどうかが、重要である……」の質問あり、石井君答弁する撤廃せず採決の結果賛成者二人にて否決。

愈々、議長豫算の討議に入る旨を宣すや、議場は頓に緊張し議長先づ陸上大運動會費を如何にするかと迫べ論本部長はこれは體育部より支出するが至當であるまいかとの質問出で、會長これは各部に加入せぬ會員の爲に一日を與へて挙行するものであるから全數の賛成を圖るものであり、學藝部も例等かの形式にて參加するものであるから全數より支出したいと迫ぶ。

瀧本部　長これを是認し尚他に全體に關する場合もこれを全體より支出し得るや否やの質問に對し、議長然りと言ふ。採決に入賛成は新聞雖誌、弁論の二部にて否決されんとしたるも運動部委員側の方より議長の説明撤廃せずと言ふものあり、議長やゝ怒氣を含み賛成の部に對し豫算の多額を得んが爲に全會員に一日の運動會を爲さしむる雅量なき事を遺憾とすと意見を述べ、根岸部長又立つて運動部が多數委員を擁して頑張られたらかなはない、こゝに運動部委員に「冥祈敬服して本案通過を希望す」と通過に努力し、

かくて　採決に入るや、陸上運動會の趣意漸く徹底したものゝ如く多數を以て可決され愈々本秋より學友會より五〇〇圓の支持を得て挙行に決定された顛末である。

委員會の延長に
豫算總會終る

討論は無意義に

無言擧手者の勝利

＝昨年＝　度委員會にて可決されたるものにて一ケ年五十錢なる額を告げ賛成を求むれば、德永君（庭球部）反對し岡田君、長谷君熱烈なる賛成演説をなし、「優良なる新聞を有つは大學の誇りである」と論じたが、運動各部暗澹し、決に入りて、

＝運動＝　部關係者以外全部賛成したが、惜しくも少數で否決。最後に廢止動議としてホッケー、弓道、剣道三部の入會案提出されたが、自己の豫算減少を惜に運動各部悉く賛成せず、德永君、七海君（籠球部）清水君（水泳部）等の議論出で、決に入りて何れも惜しく否決となり、かくて議題を完了し五時半閉會した。會場を出た二學藝學生の間には終始せる運動部の無言の雄弁さがいたく非難されてゐた。

＝杉浦＝　會長開會を宣したるのち、新會則案提出さるや、岡田君（體育會）起ちて、青柳會、新聞雖誌部六同による第二十三條修正案即ち「但し三部以上の部長の承認あるときは特別の支出をなすことを得」の條文附加を説明すれば、長谷君（弁論部）之に賛成し、採決の結果、多數にて可決、外に何等修正なく改正會則承認され、次に學友會豫算案提案されたが、委員會決定案を全會一致可決。更に新聞學會より新聞義務賛成案提案され、吉川君（新聞雖誌部）起ちて

＝杉浦＝　會長開會を宣したるのち、新會則案提案さるや、岡田君（體育會）起ちて、青柳會、新聞雖誌部六同による第二十三條修正案即ち「但し三部以上の部長の承認あるときは特別の支出をなすことを得」の條文附加を説明すれば、長谷君（弁論部）之に賛成し、採決の結果、多數にて可決、外に何等修正なく改正會則承認され、次に學友會豫算案提案されたが、委員會決定案を全會一致可決。更に新聞學會より新聞義務賛成案提案され、吉川君（新聞雖誌部）起ちて

豫算總會は去る六月一日午後二時より、第二十四番教室にて杉浦會長、本庄幹事、矢澤會計その他關係部長欠及び學生全部出席の下に開會、

兩會の對立
一致は困難

陸本部長は議長に對して、二對一の比例分配は從來の慣例に拘ぎず池に理由なきものと認め、之を説明するに、議長は、該比例は長年の經驗上合理的ならんと應答し自説を固持す。吉川君その時發言を求めて、二對一の比例は十一年度の委員會に於て某運動部の遠征費として三百圓減少したる結果にして、斷じて合理的なるものにあらず、二對三の配分を適當なるものと認むと迫ぶ。德永君これに反駁するも不思議の根みあり、議場騒然たり。議長發決を宣するも適宜の採決法なし。論本部長に公平なる學生總會の意見をもつて決せんと欲すと迫ぶるも通らず、結局行詰無駄に採決の結果多數決にて再び原案通過され本年も慣例法に則りゆく事になつた顛末である。

支那の動亂で
本學の拾ふハ氏

セントチョンから轉任する

體育主事に就任か

動亂の支那を逃れて上海の姉妹校セントジョン大學より本學に轉任される同大學體育主事アール、チ、フアウラー氏は來る九月上旬渡日されることに決定した

同氏は　亞米利加生れにして學生時代より野球籠球等各運動に秀でてゐるので本學としては同氏を體育主事に招聘し倫部合に依りては野球部或ひは籠球部の監督に嘱託する意向もある。同氏は同大學に於て約四ケ年間の親交のあつた本學教授バンディ氏は

フアウラー氏は彼地にて四ケ年間机を並べて教員生活をして居ました、同氏は道德的にも人格的にも圓滿なる士で殊に各種運動に秀でセ大學の運動部の發展したのも同氏にあづかつて力がありました、本學も同氏の來學に依りて監督のない各運動部に取りては同氏を利用するのは非常に好都合でありませう……と約二ケ年間相見ざる友の來學を非常に喜ばし相に語つた

體育館に增へた
新設劍道々場

當分は籠球場にて

◇…勇ま　しいエイヤの掛聲が近頃毎日體育館の一隅から聞こえてくる。さいふのは今度一部有志達によつて劍道部が組織され、その人達の、火の出る樣な練習によるものである。劍道部の來歴は體育部より支出するかさの質問出で、會長これは各部に加入せぬ會員の爲に一日を與へて挙行するものであるから全數の賛成を圖るものであり、學藝部も例等かの形式にて參加するものであるから全數より支出したいと迫ぶ。

瀧本部　長これを是認し尚他に全體に關する場合もこれを全體より支出し得るや否やの質問に對し、議長然りと言ふ。採決に入賛成は新聞雖誌、弁論の二部にて否決されんとしたるも運動部委員側の方より議長の説明撤廃せずと言ふものあり、議長やゝ怒氣を含み賛成の部に對し豫算の多額を得んが爲に全會員に一日の運動會を爲さしむる雅量なき事を遺憾とすと意見を述べ、根岸部長又立つて運動部が多數委員を擁して頑張られたらかなはない、こゝに運動部委員に「冥祈敬服して本案通過を希望す」と通過に努力し、

かくて　採決に入るや、陸上運動會の趣意漸く徹底したものゝ如く多數を以て可決され愈々本秋より學友會より五〇〇圓の支持を得て挙行に決定された顛末である。

高垣氏の新著を祝し
出版記念の集ひ

岡倉由三郎氏の主唱で

斯界の名士出席

今春來逗子櫻山にて病氣療養中の高垣松雄教授は、數年來鬼角勝れない健康と戦ひ乍ら遂に何人にも檢討されなかつた邦文「アメリカ文學」を上梓し數日前研究社より出版された、一二年前より不遇の境に置かれてあつた教授が壯年の渡日されたのは去る五月十四日午後六時より本年當地赴任の三氏の歓迎會を豪ねた例會に喜び本日午後六時より神田駿河台の主婦の友社にて出版記念の會を催すことになり賛同者に通知を發し、身邊の同士は此の出版を無上に喜び本日午後六時より神田駿河台の主婦の友社にて出版記念の會をしてゐる。當日は岡倉由三郎教授を始め英文學會の巨星連を網羅して盛大な會合が催されるゝ事であらう。

本學ロバース
の篝火會

五月十一日本學ロバース主催に依る慕下各少年團招待の篝火會は例年の如く盛大に催され、ロバース主人の挨拶、ボーイスカウトの活動、ボーイ、ガールの踊り、ボーイ、ガールの合唱、ボーイ、ガールの合唱、ボーイ、ガールの合唱

妻・奴隷（二）

―人種學的瞥見―

岡田太郎

女性奴隷說を吟味するに先んじて、一般に使用される奴隷の語義と科學者の使用した語義とを考察することが前面の目的であつたが更に進んで科學的に妥當な奴隷の定義を得なくてはならない。奴隷制度か、社會體系中にあつて或る作用を行ふ一の組織體である以上は、如何にして此の組織は發達しその種々な發展段階に於て有した夫々の作用は如何なる經路をたどつてゐるかと云ふダイナミックな方法によつて定義づけ得るものではあるけれども、奴隷制度の殘殘と作用の本質を明白にすることが最も直接な方法であらう。かくしてこそ、奴隷制度とそれに類似した現象とを區別することが可能であり、從つて妻の場合が本質的に奴隷現象たり得るや否やを明白にすることが出來る。

然らば奴隷制度及びその作用とは何であるか。

奴隷制度の最も著るしい特徴は勞働の分裂である。これは廣義に於けるものであつて、性質的分裂によつて、或る人が或る種の勞働に從事するとは云ふ。此の點については前者にあつては人の自由を拘束するやうなことはない。然るに後者はその人の力と同時に人格を拘束する。更に言ふならば被隷屬者は主人の或る目的に對する一の方便にしか過きない。即ち奴隷制度の目的の爲に隷屬せしめられた者の全人格の剝奪である。從つてその人間の意志も剝奪されなくてはならない。人格及び意志を有せしめられないと云ふことは、その人が一の財産又は所有物であると云ふことになる。ルトウルノウ及びスペンサアが屢々擧げてゐる如き、食人の目的による捕虜の貯藏の如き單なる肉體的所有は、社會的には何等の意義もないことで、社會制度としての人間の所有は、その對象の意志をも支配するものでなくてはならない。此處に於て次の如き定義に到達することが出來る。

「奴隷とは或る人が他の人の財産又は所有物となる事實である」

然らば妻は此の意味に於ける奴隷であり得るであらうか。女權擁張論者は一般に、好んで妻が奴隷であると云ふ。此の點については原始社會に於ける女性特に妻の地位を論じる土俗學者についても同樣であると言ひ得る。北カリフオルニア土人について「彼等が奴隷を有してゐることは疑ふことが出來ない。貞節な妻と呼ばれる女性は實買されたものである」と言ふバンクロフトであるとか「女性は全く奴隷として扱はれてゐる。悲らくこれが奴隷制度が社會進化の過程に於て後年習慣となるに至つた理由の一である」と言ふルトウルノウの如きは、妻と奴隷とを全く同義語として使用してゐる。これは果して妥當な見解であらうか勿論女性奴隷が同時に妻たる場合は問題ではない。然しこれがいづれの場合に就てもさうでない以上は、妻の所謂下賤狀態なるものを嚴正に批評してみる必要がある。此の場合一般に引例されるオーストラリア土人について見ることにする。「社會群の半數は奴隷である必要でしかも賤しめられたオーストラリア土人の女性はその生活を通じて苛酷な勞働を課せられ、その報酬としては、女性が浸利的に養育したものに食はれてしまうのである」とはルトウルノウの記すところで他の土俗學者も一樣にオーストラリア女性の下賤な地位に同情してゐる。此無下賤な地位とは如何なるものであつたか。土俗學者の種々な記載を次に幾頭し出來るだけ廣い範圍に亘つて同一又は近似現象が繰返へされてゐることを證明する點にその價値と目的とがある。然し限られた紙面では十指に餘る實例を一々に引照することは出來ない。從つて此處には一二の例を引くに止めるけれども、それが決して局部的現象でないことを記憶してをいて戴きたい。

A、妻はその同意なくして夫に獲得される。

B、妻は總て夫の權力に支配されてゐる。

（1）モルトン灣、ハーバート河南西オーストラリア、ダスマニア等の妻は奴隷と同義語をもつて呼ばれ、新南ウエールズの妻は夫の絶對的財産たることを要求されてゐる。從つて夫の妻に對する態度は極端に無情的である。

（2）夫が妻を酷使しこれを殺害することは珍らしくなく、ムーア河地方の女性の如きは、老年に達しない内に悲慘な死方をし、若し殆獨の結果が滿足でなかつたら妻は充分な仕事を尋ねて來なくてはならない。不足であるやうな時に答打たれ追出されてしまう。飢餓の場合等は女性は食ひ殺されてしまう。

（3）夫は妻を交換又は賃與することが出來る。クキーンスランド土人の女性はその結果僅かな間に數人の夫に接しなくてはならないその他外來者に對する妻の提供、虐殺となる。デイエリ族、クルナイ族、その他ハーバート河新南ウエールズ地方に普通に見る現象であつて、夫の兄弟中生き殘つてゐる者の最年長者に寡婦は屬することになるものである。

（4）夫の死後妻は夫の兄弟の財産として復讐者に與へられる。

友人間の交換等決して珍らしい現象ではなく、それが友情の鐵證であると考へられてゐる。タスマニア土人の女性の如きは價務遂行の一方法として復讐者に與へられる

假面を剝がれた狐

―文藝戰線―

三谷錄介

日本唯一の社會主義文藝雜誌と自稱する「文藝戰線」は、遂にその假面を自ら剝奪するに至つたのである。

則ち、運動が組合主義的鬪爭より、眞に全勞的展開を發行、全無産階級的政治鬪爭への方向轉換に際して、文藝運動も、その必然により方向轉換を遂げんとするに際し、眞に不方向轉換の何たるやを理解し得ず、本年二月號の誌上に於いて、愚劣極まるテーゼを發表し、その小市民性と反動性の馬脚を遂ひに露出するに到つたのである。

斯かる雜誌「文藝戰線」は、我が國プロレタリア藝術運動のその後の進展に迫られて、テーゼの修正相互批判欄の設置等による糊塗策を講じて運動に追隨し、自らの立場を正當化せんと努めて來たことは何を爲さんとするものであるか？　常にその面上にプロレタリアのふん色を施さんとしてゐることそ、雜誌「文藝戰線」が、その本質に於て、今尚、眞實に彼自身を揭棄し得ずして、かの反動的テーゼの上に――その哲學的基礎の上に――立つたものであることを明示してゐるものである。

嘗て、我が無産階級藝術運動の方向轉換に際して、問題を正當に理解し得なかつた「文藝戰線」は、運動の流れの具體的運行の中に於いて、彼自身を反動的に凝固せしめたのである。彼等は藝術の特殊性を强調し、それが方向轉換に於ける唯一の決定條件であり、又このことより藝術理論確立の必要を捻出するこの等々の彌縫策を施して、益々意識的に反動化してきたのである。

雜誌「文藝戰線」が、最大級の感激をもつて迎へたる、かの歷史性抹殺主義者田口憲一の提出による「左翼文藝宗意識」なる足を失つた片輪馬に乘つたことの、彼等にとつては、眞に必然であつたのである。彼等にとつて、眞に劃時代的なる救生主田口憲一は、遂ひに、彼の認識せる藝術の特殊性が「左翼文藝宗意識」なる、哀れにもはかなき一般論的空語であつたことを、自ら示すに至つたのである。然して、これこそ、その小市民的公式主義者の偉大なる屁尾で

風景の中の裸女達

如何なる流派にも屬さなかつたシユザンヌ・ヴラドン

彼女は長い間、ドガの弟子だと思はれてゐた。これは間違つてゐる。此の女流畫家は如何なる流派の影響、如何なる大家の模倣にも抵抗し得る自信があつた。細心氣位の高い彼女は、何よりも東洋風の聚掛の感じを思はせる豐かさと力强い確な線とで際立つてゐる。凡そ安易と名付られるものを彼女は憎惡を以て追放し、その出來ない追求です。――私を夢中にさせるものは、人體とその運動、その均衡のことまで行つても止まることの出來ない追求です。――これは彼女の言葉だ。

海はおだやかである。

支那へ行く船の上には、カーキ色の荷物が、きつしり積まれてゐた。

カーキ色の荷物の一隅から、歌がひろがつてきた。やがて、船全體が歌ひ出した。

こゝは故國を何百里
はなれて遠き滿洲の
赤い夕陽に照らされて
……

海は靜やかである。

甲板は、船尾に群り、舞つてゐる初夏の潮風は、マストに話しかけてゐる。

船は、六十浬の速力で進んでゆく。

船室で、五六本のサーベルが、酒を飲みながら談話をしてゐる。もう十五六年の間、きたへられて、いかめしい形になつたサーベルが、眞赤な顏をして、機關室の爆音を消すやうな大聲で笑つてゐる。

甲板のカーキ色の荷物は、もう歌をやめて、寢ころんでゐる。

「おい、己たちは、何をしに、支那へ行くんだ」

「きまつてらあ、戰爭をしに行くのさ」

「そうよ、ちやんころの首をちよんきりに行くのさ」

「だが、何故支那と戰爭するんだ。支那は己たちに何をしたんだい」

「そんなこと、知るものか」

「己たちは集められたのだ」

「そして船に積まれたのだ」

「そして支那へ送られるんだ」

「それだけだ」

「それだけか、もつと初めに、己たちが知らねばならないことがあるんだやあるまいか」

「知らねねや」

「それでは、己たちの相手にする支那の奴等は何だ」

「知られねや」

「それは、プロレタリアートだ！己たちと同じ仲間だ！」

「己たちは何故、そんなら、己たちの仲間と戰ふんだ」

「それは、己たちが、サーベル主義のもとに、一個のカーキ色の荷物と化されてきたからだ、己たちは殺早、一個のカーキ色の荷物ではないことを證據立てる爲に、支那から手を引くんだ」

「支那から手をひく」

「そうだ、支那から手を引け」

この時、隈談にも飽いた一本のサーベルが、靴歩淋々と、こゝへ來かゝつた、そして、この話を聞いた。

哀れな完全なるサーベルは、こは一大事と思つた。

「こら！貴樣、社會主義か」・

そして、あの勇ましいカーキ色の荷物は、たちまち、海の中へけり落された。

「氣をつけ！」

サーベルは、カーキ色の荷物をもつと完全なカーキ色の荷物にする爲に、怒鳴つた。

カーキ色の荷物は、直立不動の姿勢をこつた。

「右向け！」

「左向け！」

だが、勇ましき闘士の前に一たび目さまされたカーキ色の荷物は殺早以前の荷物ではなかつた。彼等は、世界全國無産階級の爲に叫んだ。

「支那から手を引け！」

日本海の眞中に、船はぴたりと止つた。

甲板には、カーキ色の荷物に、機關室の眞黑な混棒が和して叫んだ。

初夏の空を讃かし、その聲は、世界中の無産階級の叫びに和した。

「支那から手を引け！」

海上

柴京一郎

教立學藝消息

◇文學會講演會

本日午後二時半より二十四番教室にて「詩人ロビスン」高垣教授「劇と劇文學」竹友藻風氏の講演あり一般の來聽を歓迎する由。

◇アメリカ文學出版記念會

本學教授高垣松雄氏の近業「アメリカ文學」出版記念會は岡倉由三郎教授其他本學關係者發起にて駿河台主婦之友社樓上にて本月十五日午后六時より開催

◇明治本正名作展覽會

六月三日より上野美術館にて開催

◇新聞學研究會

毎週水曜日午后二時十分より本學二十三番講堂にて開催、講師謹本博士、藤井隆太郎氏其他數名

◇立大映畫研究會

本月十八日（土）午后六時より本學憲章館にて「第四の戒律」「立明野球戰」「立對フレスノ野球戰」「ユ社國際時報」を上映、說明者不二田青風君

◇學苑（六月號）「稷下諸子の哲學」渡邊秀方「綠の發生」金原省吾「勞働者「蹶起の宗教觀」金子白夢「美的表象と美的觀照」多田憲一「哲學の論理」北昤吉、批評紹介等（定價五〇、府下井荻町上井草一三八〇其社）

◇我觀（六月號）同時代觀一八三宅雪嶺、政局安定の日「恐慌後の財界は何うなるか」北崎進「共同主義に於ける財界救濟法」眞美東台「古い型の新自由主義」松田雪堂、諸家（定價五〇、麴町區內幸町島ビルヂング內其社發行）

◇日露藝術（六月號）個日に出た例本店貴氏の新ロシア美術展の批評を露譯して載つてゐる。此の雜誌に對しては種々異つた世評はあるがプロ運動者のみに限らずロシア藝術に接する人々に紹介子は本誌を薦めたい（價二十錢、上目黑一九四九其社發行）

◇木星（六月號）髮（小說）浦島義博、或る古典的なる彫像（小說）小出正吾、彼の幻覺（小說）瀧田久道、コローの手紙、トロツキーを讀む、讀書金錄（定價二〇、高田旭出五九其社）

◇經濟往來（六月號）「生産關係と配分關係」土方友美「戰爭に依る平和」米山梅山、社會經濟隨想諸家其他（定價二五、本鄕弓町日本評論社）

◇調査時論（五月號）（京城牟洞二五其社）

◇普選講座（朝日新聞社）

◇ローマ字世界（六月號）（定價二〇、本鄕區駒込曙町其社）

◇婦國婦人（六月號）（麴町飯田町一丁目愛國婦人會內）

◇商業英語（橫濱青木町樂田谷）

廣告

音樂教授
呈進會則
ピアノ、オルガン、ヴアイオリン、セロ
マンドリン、ギター、ボーカル
これから學ばうと思ふ方は勿論ですが現に習つて居る方も當方の會則を一度御覽下さい
池袋1169　池袋音樂會

穿き心地と堅牢を
モットーとせる當店の靴
シバヤ靴店
西大久保六二

洋畫材料は
美蘭社へ
池ノ端仲町通り
振替東京四七四五三

高級ノート　イーグル印
Trade mark "EAGLE" Note Book is the best obtainable in Japan. always the finest in quality, Look for this mark when you need them.
（イーグルの商標に御注意下さい）

親切第一
夏服の御用命には
特に迅速に御仕立致します
必ず御氣に召す服地を澤山備へて御坐います
中野屋洋服店
立大構內出張店

優美で廉價そして堅牢なお
井村靴店へは
立大構內出張所

立教大學御用
日之出屋洋服店
目白女子大學通り

美味しい清涼な飲料洋果は
君をお待ち致して居ります
ユリヤ喫茶店
豐島師範橫通り、遠上運動具店橫通

玉の響きを打つ毎に
涼しさが增して行く
樂園
立大兵器庫裏

更に精鋭第三段の構
「正宗」の切れ味を今更誰が疑はう！本映畫を喋々するは其れにも增して愚かであるまいか
見よ！
我が映畫界に君臨し燦然と光彩を放つ雄伏せる劍劇界の寵兒
市川右太衛門
新鋭獨立第一回作品、安政盜閥錄
浄魂　全十卷
蔦見丈夫監督得意の軍事大活劇
押本映治、岡田宗太郎共演
田中絹代、高尾光子共演
月島光波
國境の唄　全七卷
滑稽大王バスターキートン最多傑作
メトロ・ゴールドウイン社
珍勇大王、天下一品
キートン西部成金
十日より　毎日午後一時、日曜午前十時開館
池袋武藏野館
電話大塚一一三八番

文壇の寵兒　三上於菟吉氏原作
斯界の巨匠　村田實氏監督
問題の名優　岡田嘉子、中野英治
其他オールスターキャスト
日輪　前後篇　全部上映
ラリーシモンコメデー
弗箱シーモン　全六卷
十日より　平日一時、土、日十時開館　學生券四十錢也
省線新大久保　大久保キネマ

開店披露
銀座二丁目（電停前）
カフエー　クロネコ
（階上毎日オーケストラ演奏）

今夏の最新流行型！
色合、模樣生地仕立共モダーンテストの橫溢した優秀品ぞろひです。
何卒御用命下されんことを……
藤井洋服店
淀橋町角舌六〇

出來る限り皆樣の御便宜を尊重致します
大洋堂書店
新古物豐富
最高價買入
立大正門通り

最も進歩せる完全消毒の齒刷子
LION TOOTH BRUSH
TRADE MARK
ライオンの萬歲ハブラシ
發賣元　ライオン齒磨本舗　株式會社　小林商店